

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

日本の今と、未来のために

長岡市立大島中学校

三年 本間 健太

私は中学二年生の時に、体育の走り高跳びの授業で鼻の骨を折る大怪我をした。その時救急車ですぐに病院に搬送され、治療を受けた。病院に着いてからはMRI検査をして、鼻の骨を元の位置に戻す整復術という治療をしてもらった。幸い、今では鼻は元の形に戻り、不自由なく生活することができている。そんな生活ができてるのは、先生方、救急隊員の方、お医者さんの尽力と、医療のために使われる税金があったからだろう。

日本では救急車を無料で呼ぶことができる。これは世界的にみても珍しい。本来は一回利用すると四万五千円ほどするところだが、全て税金によってまかなわれている。この制度によって、医療を本当に必要としている人が、抵抗なく救急車を呼ぶことができる。私にとっても、救急車で少しでも早く病院に着くことができたのはありがたかった。私が病院でもらったMRI検査や治療はどちらも高額だが、これらの医療費にも税金が使われている。それにより、窓口で支払う代金が軽減されるため、誰もが安心して治療を受けることができる。

また、私の住む新潟県長岡市には、市独自の制度として、「子ども医療助成制度」がある。これにより、高校生までは一回の通院にかかる費用は一律五百三十円で済み、薬は無料で処方してもらうことができる。子育て支援の一環として、医療費の助成だけでなく、子どもたちが安心して遊べる場所や親同士の交流の場として、様々な子育て支援施設も充実している。これらの施設は、市が税金によってつくってくれているのだ。この制度によって、子どもが医療を受けやすく、親が子育てをしやすい社会がつくられており、未来を担う子どもたちの健やかな成長をサポートしてもらっているなど感じる。

小さい頃の私にとって当たり前だった施設が、税金によってつくられていた。そのことを知って私は、税金は私たちの暮らしと密接な部分にも多く使われているのだと思った。私たちが納めている税金は私たちのために使われている。そのことを知ると、税に対するイメージが変わるだろう。一人ひとりが税に対しての正しい知識を身に付け、社会全体で困っている人を救済していく、そんな日本になってほしい。

私が今納めているのは、消費税のみだが、大人になるにつれ、様々な税を納める必要が出てくるだろう。しかしそれは悪いことではない。日本のどこかで助けを必要としている誰かのために使われ、その人の救いとなるのなら、大きな意味をもつだろう。私は納税する。日本の今と、未来のために。